

11月

# ↓アジュール舞子の草花・花木 11月

## キョウチクトウ

インド原産。葉は長楕円形で、両端がとがった形。やや薄くて固い。花は、およそ6月より残暑の頃である9月まで開花する。ピンク、黄色、白など多数の園芸品種があり、八重咲き種もある。



## フヨウ 芙蓉

幹はよく枝分かれして上だけではなく横にも枝がよくはりこんもりと茂る。夏から秋にかけて最大直径15cmほどの花を咲かせます。花色は品種によって白～ピンクまで色幅(濃淡)があります。花は朝開いて夕方にはしぼむ一日花です。



## ローズマリー

地中海沿岸に分布する常緑性の低木です。強い芳香があってハーブとして利用される。葉っぱは3cm程の短い棒状で濃緑色、表面には光沢があります。冬から秋にかけて葉の付け根に淡紫色の花を咲かせます。満開時は枝がたくさんの花で彩られます。



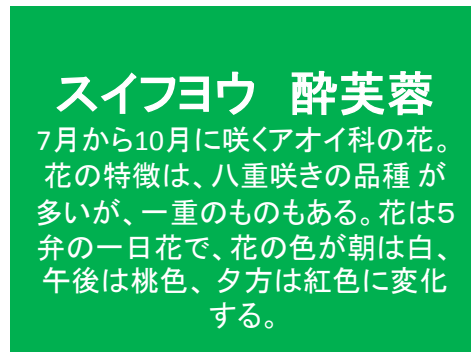
## アベリア

低木で、春～秋のかなり長期に渡って、鐘形の小さい花を多数咲かせる。花の香りは非常に強い。日本列島の関東以西では真夏の酷暑の時期に花をつける在来植物が少ないため、この時期にはアベリアの花に多様なハチやチョウが吸蜜に集まる。



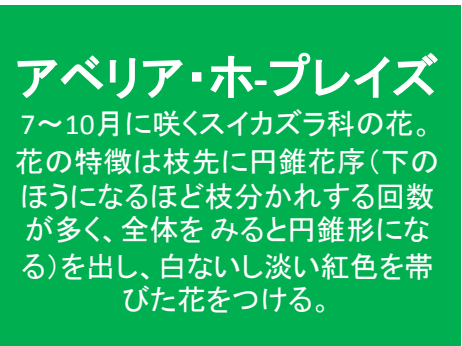
## ムクゲ 木槿

アオイ科フヨウ属の落葉樹。すらっとした直立した樹形。花は一重咲き、半八重咲き、八重咲きのものがある。色は白、濃紅、濃紫、青紫、ピンクなどがあります。花は短命で朝咲いたらその日の夕方にはしぼんでしまう一日花です。



## スイフヨウ 酔芙蓉

7月から10月に咲くアオイ科の花。花の特徴は、八重咲きの品種が多いが、一重のものもある。花は5弁の一日花で、花の色が朝は白、午後は桃色、夕方は紅色に変化する。

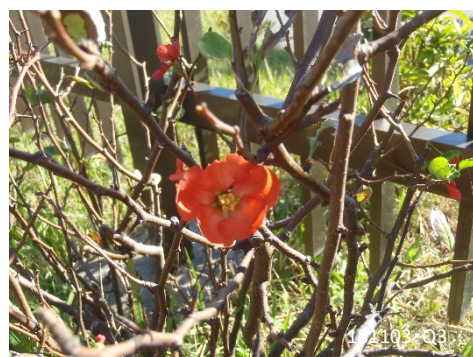


## アベリア・ホ・プレイズ

7～10月に咲くスイカズラ科の花。花の特徴は枝先に円錐花序(下のほうになるほど枝分かれする回数が多く、全体をみると円錐形になる)を出し、白ないし淡い紅色を帯びた花をつける。

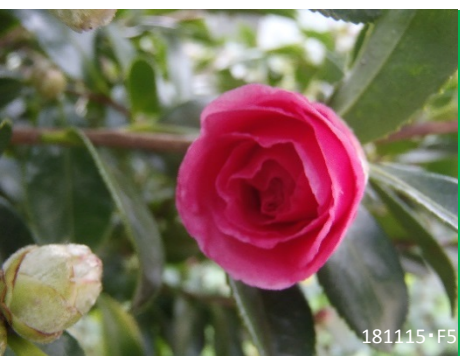


# ↓アジュール舞子の草花・花木 11月



## カンツバキ 寒椿

サザンカとツバキの交雑種と言われ、よく分枝するが背丈は低い。冬の間、紅、白、桃色の花を咲かせます。山茶花と同じで花弁はバラバラに散る。



## ヤブツバキ 藪椿

椿の仲間は200品種を越える園芸品種が作成されていて、日本に自生している野生種はこのヤブツバキと、その変種とされるユキツバキとヤクシマツバキの3種だけです。」「つばき」の語源は、厚葉木(あつばき)または艶葉木(つやばき)といわれている。



## ハクチョウゲ

生長が早く、芽吹く力が強く、細かい枝葉を密生させるのが特長で、江戸時代から生け垣や植え込みなど庭園に利用されていました。5月～6月に1cm足らずの星形を白い花を株いっぱい咲かせます。シンプルでなかなか可愛い花です。

## サザンカ 山茶花

花の無い時期に咲く貴重なツバキ科ツバキ属の耐寒性常緑高木です。花色には桃色、赤、白等があります。サザンカはツバキと違って、葉縁がギザギザしており、花弁がバラバラに散る。

## ボケ 木瓜

日本、中国を原産とするバラ科ボケ属の落葉低木。枝にはとげが生えており、短い枝に花がびっしりとつきます。果実が瓜に似ており、木になる瓜で「木瓜(もけ)」とよばれたものが「ぼけ」に転訛したとも言われる。





## ユキヤナギ 雪柳

バラ科シモツケ属の落葉低木。株元から枝をたくさん出してわさわと茂ります。緩やかなアールを描きながら長くしなやかに枝垂れる枝と株を被うほど咲く白い花が特長です。



181115・H5



181103・O3



181115・I5



181111・G6

## クコ 枸杞

ナス科の落葉低木で、食用や薬用に利用される。開花期は夏から初秋で、直径1cmほどの小さな薄紫色の花が咲く。果実は1cm~1.5cmほどの楕円形で、赤く熟す。



181115・I5

## コデマリ 小手毬

中国原産の落葉低木で、名前は小さな手毬状の花姿に由来します。日本でも古くから知られており、「スズカケ(鈴掛)」の古名があり、5枚の花びらをもつ径7mm程の小花がまとまって咲き、およそ3cmの手毬状になります。



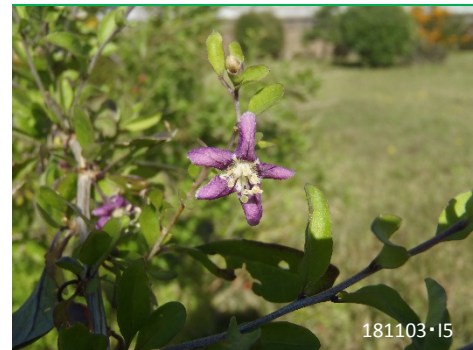
181103・I5

## シモツケ 下野

バラ科シモツケ属の落葉低木。地際からたくさんの枝を出して広がり、葉は長楕円形で長さ5cm~10cm、秋に紅葉します。主な開花期は晩春~初夏、淡い紅色の小さな花をたくさん咲かせます。



181103・J5



181103・I5

## バイカウツギ 梅花空木

ユキノシタ科バイカウツギ属の落葉低木。6月~7月に枝先に白いさわやかな花を咲かせます。また、茎が中空のためにウツギの名前がついています。



181115・H5



181111・I5



# ↓アジュール舞子の草花・花木 11月

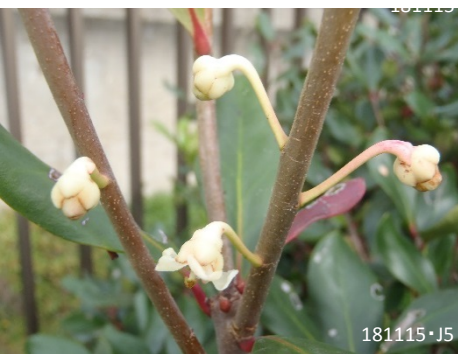
## モッコク 木斛

ツバキ科の常緑性広葉樹。

7月頃に淡いクリーム色の花をうつむきかげんに咲かせます。花後には球形の果実ができ、秋に赤く色付きます。モチノキ、モクセイとともに「三大庭木」にも数え上げられ、地味ですが風格があり、庭の主演として扱われてきました。



181115・J5



181115・J5



181115・J5



181115・J5

## ハマヒサカキ

### 浜姫榊

晩秋の頃になると葉の付け根に小さな白い花を咲かせます。名前は「浜に生えるヒサカキ」という意味合いで名づけられました。ヒサカキの開花期は3月～4月、ハマヒサカキは10月～2月です。



181122・G5



ハマヒサカキ  
雄花

雌花

＊雄花の写真は「松江の海辺」より

181122・G5



181122・G5



181122・G5

## ナワシログミ

枝の先は、しばしば棘になる。マツ林などの明るい二次林や林縁などに生育している。葉の表面には星状の毛が点々とあり、独特の模様となっている。果実は4月から5月の「苗代」を作るころに赤熟するので、ナワシログミの名がある。



181111・N4



181115・D5

## ニシキギ 錦木

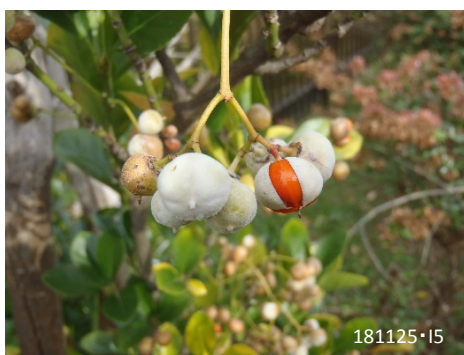
枝にコルク質の翼が四方につき、葉は楕円形で、秋に紅葉する。紅葉した美しい姿を「錦」に例えられて錦木の名前が有ります。5月ごろ、黄緑色の小花が咲き、実は赤く熟す。庭木にされ、枝に翼のないものをコマユミ(類似種)という。



181125・G5



# ↓アジュール舞子の草花・花木 11月



## ピラカンサ

ピラカンサはトキワサンザシ、  
タチバナモドキ、カザンデマリ等の  
バラ科トキワサンザシ属の  
種類の総称。  
常緑性の低木で、  
春に白い小花を咲かせ、  
秋から冬にかけて赤や柿色の  
果実をたわわに実らせる。



## トベラ 扉

4～5月になると枝先に芳香のある  
白い小さな花をたくさん咲かせて  
丸い果実ができます。  
果実は10月頃に熟して3つに  
裂け、ねばねばとして糸を引いた  
赤いタネが中から出てきます。  
雌雄異株で果実は雌株にできます。



## マサキ

葉は楕円形で縁にゆるやかなぎざ  
ぎざが入り、草のような光沢があり  
厚めです。夏に緑がかった白色の  
小花を咲かせ、冬には赤い実を付  
けます。熟した実は3～4つに裂け  
て、中から赤黄色の種子が現れま  
す。



## クロガネモチ

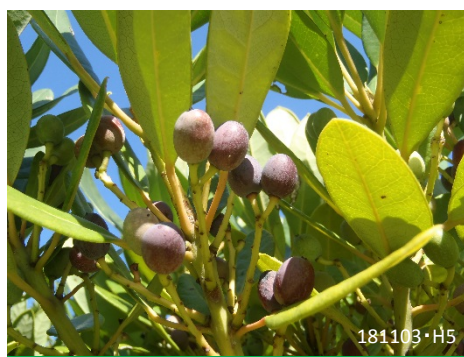
5月～6月にごく淡い紫色がかった  
小さな花を咲かせます。花自体は  
小さく目立ちませんが花後に1cm  
足らずの果実をたくさん付け、秋に  
なると真っ赤に熟します。たくさん  
の真っ赤な実を付けた秋の姿は非  
常に美しく冬までその姿を楽しむこ  
とができます



# ↓アジュール舞子の草花・花木 11月



181103・O2



181103・H5



181115・F5



181103・O2



181115・H5

## マルバシャリンバイ

### 丸葉車輪梅

葉が丸いシャリンバイです。  
花は白～薄紅色で、晩春に梅に似た花を咲かせます。晩夏～秋に黄緑色の球形の果実を成らせその後熟して黒くなります。

## タラヨウ 多羅葉

雌雄異株(しゅういしゅ)で、花期は4～5月頃、4mmほどの小さな淡黄緑色の花が群れて咲く。秋には8mmほどの小さな球形の赤い実がなる。葉の裏面を傷つくと字が書けることから「葉書」の語源ともいわれ、「郵便局の木」と定められ各地の郵便局に植栽されています。

## ネズミモチ 鼠麴

葉は卵形で先端がとがってやや厚みがあり、表面に光沢があります。6月頃に先端が4つに裂けたラッパ状の小さな白花をまとめてたくさん咲かせます。果実はだ円形で秋に黒紫色に熟します。果実がネズミの糞に似ており、葉がモチノキに似ているのでこの名前があります。



181115・H5



181125・O2



181103・H5

## アセビ 馬酔木

馬が食すと酔ったように苦しむことに由来します。茎葉に有毒物質のアセボトキシンが含まれており人間が誤って口にすると腹痛、嘔吐などの症状を起こすことがあります。春にスズランのような甘い香りのする白い花を楽しむことができます。

## ユズリハ 譲葉

葉は厚くて光沢があり色は濃い緑色で葉と枝をつなぐ軸(葉柄)の部分が赤味を帯びています。新旧の葉の世代交代がユズリハの場合「若葉が生えそろうたら→古い歯が一斉に枯れ落ちる」というふう to 短期間にはっきりしています。

## シャリンバイ車輪梅

バラ科シャリンバイ属の常緑低木。小枝を車輪状に出して、5月に梅に似た白い花を咲かせることからシャリンバイの名前があります。花後には直径1cmほどの球形の実を付け、10月頃に熟して黒紫色になります。



181125・J5



# ↓アジュール舞子の草花・花木 11月

## ハマゴウ

海岸に生育する常緑の低木。本州・四国・九州からアジア東南部から南大西洋、オーストラリアにも分布している。葉の裏面には灰白色の毛が密生しており、白い。夏に美しい唇形の花を咲かせる。花冠は長さ1~1.5cmで青紫色。



## ヒラギナンテン 柎南天

葉っぱがヒラギ、実の付き方がナンテンに似ているためにこの名前があります。冬になると葉は赤く色付き、春には花茎を横から斜め下に伸ばし小さな黄色花をたくさん咲かせます。花後には果実がドウのような房状になります。



## ソシンロウバイ

### 素心蠟梅

葉の展開に先立って、花径2センチくらいの花をたくさんつける。ロウ細工みtainな花弁と嫌みのない芳香が特徴。蠟梅(ロウバイ)は内側の花被片が濃い紫色になるのだが、素心蠟梅(ソシンロウバイ)は花被片全体が黄色くなる。



## ウバメガシ 姥目椀

沿岸地域の急傾斜地などに生育するカシの仲間の常緑樹。ウバメガシは備長炭とよばれる良質の木炭の原料として重用されました。名前の由来は新芽が茶色いためという。「ばべ」あるいは「ばべがし」とも呼ばれています。



## サルスベリ 百日紅

春に伸びた枝の先端に夏から秋にかけて花を咲かせます。花色は白、ピンク、紅、紅紫などがあります。樹皮のはがれた部分はつるつるしているところから、「猿も滑って落ちる→猿滑り」というのが、名前の由来とされています。



## オオシマザクラ

### 大島桜

オオシマザクラは花が白くて遠くから見るとやや青白く見えるのが特徴です。葉には、よい香りがあり、塩漬けにして桜餅を包むのに使われます。



## カメリア エリナ・カスケード

ツバキ科ツバキ属の常緑中低木です。椿の仲間で、中国の野生種を改良した園芸品種です。枝が細いので湾曲し、先端が下垂する枝垂れ性の椿で、春、白色で外弁花が薄桃色の小花を咲かせます。別名 姫山茶花とも言われています





## ハマボウ

アオイ科の落葉低木。花期は7-8月で、直径7cm程度の、中心が赤褐色の黄色い花を咲かせる。花の形態は同属のハイビスカス、ムクゲ、フヨウ等に似る。花は1日でしぼむが、大きな株は夏季に毎日次々と開花する



181103・J5

## ランタナ

真ん丸に咲く花の色が少しずつ変化していくのが特徴。基本種は咲き始めがオレンジ色で徐々に黄色に変化していきます。その様子からシチヘンゲ(七変化)の別名がついています。



181111・R3



181123・E7



181115・F5

## コバノランタナ

### 小葉のランタナ

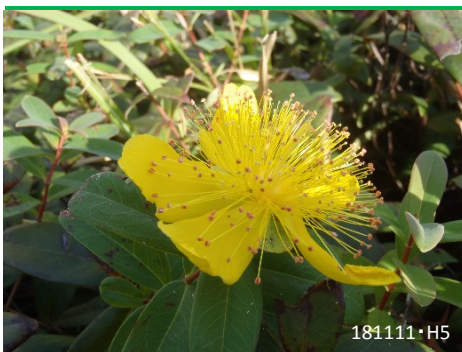
コバノランタナは桃色や白色の花を咲かせる匍匐性の低木です。ランタナと同じ仲間である南アフリカ原産の植物で寒さにはあまり強くありませんが、暖地では庭植えで越冬させる事ができます。



181111・Q3

## ヒペリカム・カリシナム

ビヨウヤナギやキンシバイの仲間ですが、草丈20~60cmの矮性種で、グランドカバーに適します。花は小さいが、株全面に咲く。日なたでもよく育つ。花期は長く、夏の高温時にもよく咲く。花色は黄。葉が黄金色の品種もあります。



181111・H5

## ハナイソギク

### 花磯菊

伊豆や房総半島の海岸に自生し群生するイソギクの外側に花弁がついた種類がハナイソギクとされています。イソギクと園芸品種のイエギクとの自然交雑種とも言われ、イソギクの先祖返りという説もあります。



181115・C6

## イソギク 磯菊

野菊の一種で、磯に自生するのでこの名前があります。多年草で地下茎を出して株立ちになる。葉は楕円形から倒楕円形で、大きく丸い鋸歯が入る。葉は厚く、表は緑色だが、裏側は白い毛が密生する。花期は10-11月頃、多数の頭花を散房状につける。



181111・Q3



181115・C6

## サトイソギク



# ↓アジュール舞子の草花・花木 11月

## ハマギク 浜菊

野菊の一種で、青森県から茨城県にかけての太平洋側の海岸に自生します。秋になると、径6cm前後のマーガレットやノースポールに似た白い花が咲き、初冬まで咲き続けます。



## コギク 小菊

「野菊」ではなく、観賞用の園芸品種としての「家菊」で、小菊とは直径が9cm以下のものをいう。キク栽培の起源は中国であり、唐の時代(奈良時代)に大いに改良され、日本にも伝えられた。日本でも独自の改良がなされ、今日の隆盛にいたっている。



## ユリオプスデージー

南アフリカ原産の常緑低木です。小さいうちは草花のような姿ですが、年を経ると茎は太くなって表面がごつごつした樹木らしい姿になります。葉は羽状に深く切れ込んで表面に柔らかい毛が密生し、灰白色に見えます。冬～春の花の少ない時期に一重の黄色い花を咲かせます。



## ノジギク 野路菊

九州、四国や瀬戸内海の沿岸の崖などに自生する多年草です。潮風に吹かれて咲くのじぎくには野生の力強さを感じられます。また、兵庫県の県花になっており、播磨地方では野生菊の代表といえます。



## シロタエギク

### 白妙菊

寒さには強いが高温多湿にやや弱い常緑多年草で、草丈50～100cmくらいになり、茎の下部は木質化する。葉は長さ10cmくらいで羽状の切れ込みがあり、茎や葉は緑だが白い繊毛があり、6月か7月頃に黄色い花が開花する。



## ツワブキ

毎年花を咲かせる多年草です。主に海がごく近い海岸線に自生します。葉の表はワックスのような層でコーティングされており、ツヤツヤした光沢があります。秋から冬に地際から長く花茎を伸ばして、キクに似た一重の黄色い花をまとめて咲かせます。



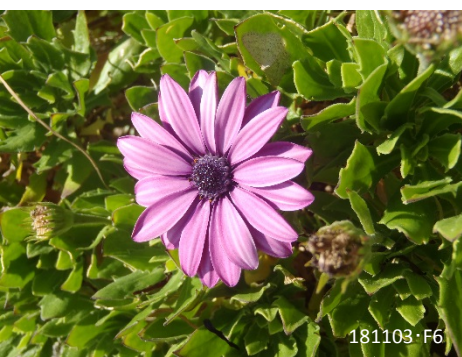
## オステオスペルマム

おもに南アフリカに分布する毎年花をさかせるキク科の草花。以前はディモルフオセカと混同されて売られていましたが、多年草で花茎に葉がつくなどの違いがあります。強い日差しを好み、乾燥に強いという性質は共通しています。花は日差しに反応して開き、日陰や雨の日は蕾のままになります。



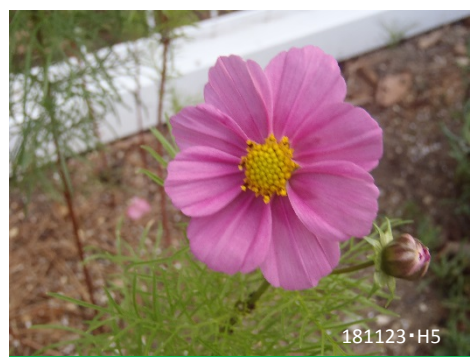


# ↓アジュール舞子の草花・花木 11月



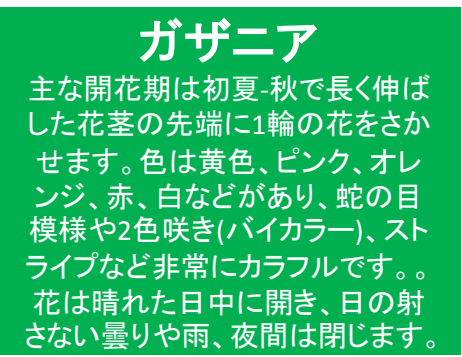
## マリーゴールド

主に春にタネをまき、夏～秋に花を楽しみ、冬前には枯れる一年草です。花色は黄色、オレンジ、赤など暖色系が多いですが、珍しいものでは白やクリーム色の花も知られています。



## キンギソウ

キンギソウは地中海沿岸(南ヨーロッパ・北アフリカ)に分布する植物です。花茎をまっすぐ上に向かって伸ばし、穂状にたくさんの花を咲かせます。花の姿がひれを広げて泳いでいる金魚に見立ててキンギソウの名前があります。



## ガザニア

主な開花期は初夏-秋で長く伸ばした花茎の先端に1輪の花をさせます。色は黄色、ピンク、オレンジ、赤、白などがあり、蛇の目模様や2色咲き(バイカラー)、ストライプなど非常にカラフルです。花は晴れた日中に開き、日の射さない曇りや雨、夜間は閉じます。



## フユシラズ

冬知らず(キンセンカ)

キンセンカの耐寒性の高いものの品種が「冬知らず」という名前前で流通しています。

少々霜に当たっても、雪をかぶっても、花を咲かせます。



## コスモス 秋桜

コスモスはキク科コスモス属の総称で、日本の秋の風物詩となっているコスモスは、コスモス・ピピンナツスという種類で、メキシコの標高1600m以上の地域に自生しています。このコスモス・ピピンナツスは日が短くなると花卉を付ける短日植物なので、夏に種をまき秋に花を楽しみます。





# ↓アジュール舞子の草花・花木 11月

## ゼラニウム

花は一重、八重などがあり、色は赤、紅、淡紅、ピンク、サーモンピンク、白などがあります。葉は丸っこく、馬のひづめ型の黒っぽい斑紋がつきます。茎は多肉質で太く、葉のつけ根から花茎を伸ばして先端に数十輪の花をボール状にまとめて咲かせます。



## シャスタデージー

フランスギクに日本のハマギクを交雑してつくられました。白色の舌状花と黄色の筒状花で形成される集合化です。八重のシャスタデージーです。



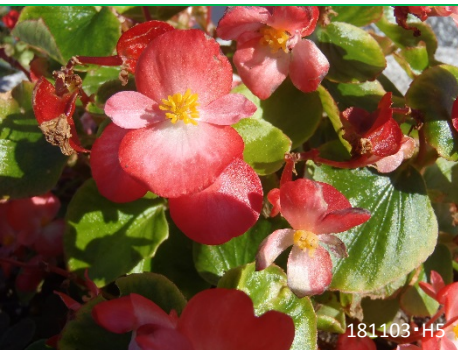
## プリムラ・ジュリアン

サクラソウ科サクラソウ属の園芸植物。冬から春の花が少ない時期に、赤、白、ピンク、紫、黄色などのポップな色彩の花を咲かせる草花です。



## ベゴニア

シュウカイドウ科シュウカイドウ属に属する植物の総称。原種を交配し、多くの種や品種がつけられたため、それらの性質は多様である。共通する特徴は、葉の形が左右非対称であること、花は雌雄別であり雄花は4枚、雌花は5枚の花びらをもつことなどである。



## シバザクラ 芝桜

北米西部原産の毎年咲く多年草です。茎は立ち上がらずに横に這うように広がって4~5月に花を咲かせます。環境が良ければ一株で径50cmほどに広がり、満開時の地表を埋め尽くさんばかりの花は見応えがあります。花は色は白、ピンク、藤色などがある。

## コマツヨイグサ

### 小待宵草

アカバナ科マツヨイグサ属の越年草または多年草。砂地などに生える

**環境省指定要注意外来生物。**

## ペチュニア

初夏から秋にかけて咲く草花で、夏の花壇には欠かせない植物の一つです。品種改良も多く、500種以上の園芸品種があります。大輪、中輪、小輪種があり、八重咲き、一重咲きなどのバラエティーもあります。別名「ツクバネアサガオ」とも言います。





# ↓アジュール舞子の草花・花木 11月

## ハナカタバミ(オキサリス)

南アフリカ原産で江戸時代に観賞用に導入された球根草。10-11月に葉縁から花柄をだし、3cm程の淡紅色の5弁花をつける。良く似る仲間にイモカタバミやムラサキカタバミがある。ハナカタバミは花が大きく、中心は淡緑色で葯は黄色、ムラサキカタバミは中心の色が淡黄緑色で葯は白色、イモカタバミは中心部が紅紫色で葯が黄色。



181111・I5



181115・H5



181111・H4

## セイヨウタンポポ 西洋蒲公英

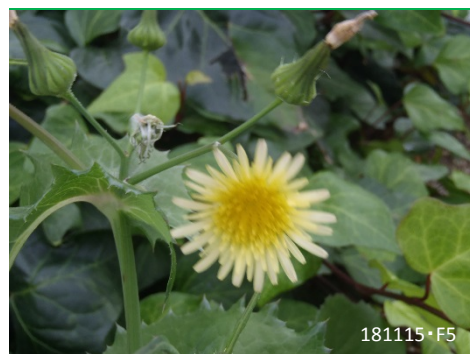
キク科タンポポ属の多年草。ヨーロッパ原産の帰化植物。環境省指定要注意外来生物。日本の在来種とは外側の総苞の反る点が異なる。

## ノゲシ 野芥子

ノゲシは世界至る所に帰化している植物であり、原産地はヨーロッパであると考えられている。荒地や空き地などに生育している。秋に芽生え、春から夏にかけて茎をもたげて花を付ける。種子の綿毛は絹状の毛であり細い。



181111・E7



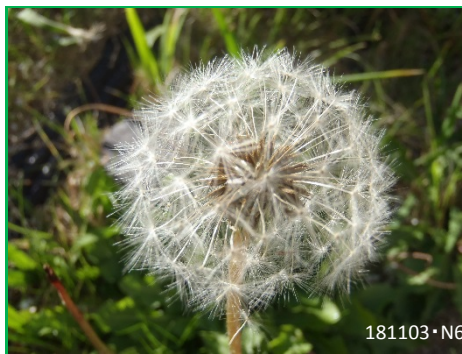
181115・F5

## カタバミ 片喰

カタバミ科カタバミ属の多年草。地下に球根を持ち、さらにその下に大根の様な根を下ろす。繁殖が早く、しかも根が深いので駆除に困る雑草である。アカカタバミ、ウスアカカタバミ、オッタチカタバミ等がある。



181111・J6



181103・N6

## シロツメクサ 白詰草 (クローバー)

マメ科シャジクソウ属の多年草。別名、クローバー。原産地はヨーロッパ。花期は春から秋。



181111・R3

## ブタナ 豚菜 (タンポポモドキ)

キク科エゾゴウゾリナ属の多年草。ヨーロッパ原産で、日本では外来種(帰化植物)として各地に分布。

環境省指定要注意外来生物

## アキノノゲシ 秋の野芥子

花がノゲシに似てて秋に咲くことに由来しますが、ノゲシとは属が違い、草形も異なります。茎や葉を傷つくと白い乳液を出すから「チチクサ」の別名があります。黄色い花のノゲシに対し、アキノノゲシは白みをおびた黄色です。



## ホトケノザ 仏の座

葉のつき方が「仏の蓮座」に似ていることからこの名がついた。春の七草のホトケノザはキク科のコオニタビラコのことです。本種とは異なる。

幼苗期にはオオイヌノフグリに似ているが、ホトケノザの方が細長く伸び、やや赤みを帯びていることが多い。



## ヒガンバナ 彼岸花

(曼珠沙華)

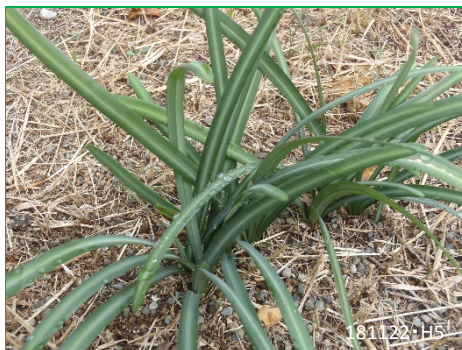
お彼岸の季節、田んぼのあぜ道や土手で見かけることが多いが、これはノネズミがあぜ道や土手に穴を開けるのを、彼岸花の毒性のある球根を植えることで防ぐためと考えられる。赤のほか白、黄色の花弁をもつものがある。

## チチコグサ 父子草

キク科ハハコグサ科の植物。母子草は春の七草のオギョウの別称で親しまれ野の花として風情があるが、父子草は形は面白いが地味な植物。母子草が白い毛に包まれた柔らかな姿に黄色い花が映えるのに対して、父子草には全体に色気が少ない。そこが父子草たるゆえんかも知れない。



周りの草が枯れた冬の間に太陽の光を浴びて、球根に栄養分を貯え彼岸に花を咲かせます。



## イヌクグ (カヤツリグサ属)

乾燥気味の日当たりの良い所を好む暖地性の多年草。草丈30センチ～60センチになり、根元より三稜形の長い茎を伸ばし、茎の先に葉と同形の包葉を3個～5個出す。小穂はブラシ状に開出してつけ、小穂の長さ4ミリ～5ミリの円柱形で先端に小花をつける。